

【足立区地域包括支援センター運営協議部会】概要

会議名	令和4年度 第2回足立区地域包括支援センター運営協議部会		
事務局	福祉部高齢者施策推進室地域包括ケア推進課		
開催年月日	令和5年2月24日（金）		
開催時間	午後2時 ～ 午後4時		
開催場所	足立区役所 南館12階 1203会議室		
出席者	大口 達也 部会長	賀川 幸英 副部会長	花田 豊實 委員
	鈴木 康大 委員	和田 庸右 委員	鵜沢 隆 委員
	中村 輝夫 委員	茂出木 直美 委員	村岡 孝次 委員
	和田 忍 委員		
欠席者			
会議次第	別紙のとおり		
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ 足立区地域包括支援センター運営協議部会資料</li> <li>・ 評価結果報告書</li> </ul>		
その他			

○  
センター担当 これから、令和4年度第2回足立区地域包括ケアシステム推進会議地域包括支援センター運営協議部会を開催いたします。本日はお忙しい中ご出席くださいます。誠にありがとうございます。私は、本日司会を担当いたします、地域包括ケア推進課センター担当の坪井と申します。よろしく願いいたします。

まず、本日の資料の確認をいたします。事前に送付をいたしました資料の準備をお願いいたします。まず、本日の「次第」でございます。続きまして「協議・報告資料」でございます。続きまして別紙、本日机上配付しております「地域包括支援センター業務委託評価」でございます。不足等がございましたら、挙手をお願いいたします。

よろしいでしょうか。

では、本日の会議は、足立区地域包括ケアシステム推進会議地域包括支援センター運営協議部会設置要綱第8条に基づき、過半数の委員が出席しておりますので、成立いたしますことをご報告いたします。

なお、円滑に会議を進行するため、ご発言の際には、お手数ですが挙手で合図をしてください。オンラインの方は、事前に配付しておりますルールに従ってお願いいたします。

また、この会議の会議録は公開いたします。記録の関係上、ご発言の前にはお名前をお願いいたします。

それでは大口部会長、開会のご挨拶をお願いいたします。

○大口部会長 皆様、よろしくお願

いたします。今年度2回目の運営協議部会になります。

今回の議題としては、ハウカツの業務委託評価といった、25か所のハウカツにヒアリングという形で実態を把握していくという目的があったと思います。この運営協議部会のすごく大事な活動として、ハウカツ並びに区取組、施策について応援していく、サポートしていく、協議していくということ、情報を得るということ、そういうことも含めて議事を進めていければと思います。

今日は、評価の結果などもあると同時に、この間、第1回から第2回に至るまで、プロポーザルやシステムの導入、また、今年度コロナ禍での実態把握など、いろいろな動きがありましたので、そういったことも含めて皆様と協議ができればというふうに思います。今日は、よろしくお願いたします。

○センター担当 ありがとうございます。

次に、賀川副部長、お願いいたします。

○賀川副部長 皆さん、こんにちは。医師会の賀川でございます。日頃からハウカツの皆様には大変お世話になっております。医師会といたしましても、いろいろと医療介護連携を強化してまいりまして、医師会の中で、その支援室を立ち上げました。研修のスキルアップをするなど、昨年の秋には足立区の5ブロックごとに多職種連携研修を行いまして、それぞれ現場で50名以上集まりました。いろいろな先生方とか、多職種の方々から活発な意見をいただきまして、大変参考になりました。さらに医師会といたし

ましてはその連携を強化していきますので、どうぞよろしく願いいたします。  
○センター担当 ありがとうございます。

それでは議事に入ります。議事進行を大口部会長、お願いいたします。

○大口部会長 それでは議事に入らせていただきます。次第の2に協議事項があります。そしてまた報告事項がありまして、いずれもつながっているものですので、事務局から一括して説明をお願いいたします。

○柳瀬課長 皆様、こんにちは。地域包括ケア推進課長柳瀬でございます。本日はどうぞよろしく願いいたします。私から協議事項、そして報告事項のご報告をさせていただきます。よろしく願いいたします。

恐れ入ります、一連の資料の中、1ページをお開きください。まず1つ目の案件で、協議事項でございます。「地域包括支援センターの業務委託評価について」、委員の皆様には評価に携わっていただき、誠にありがとうございます。本日は、令和4年度の業務委託評価の結果、そして令和5年度の実施方法につきまして協議をさせていただきます。

まず1点目、令和4年度の業務委託評価でございます。実施方法につきましては、こちらの表を御覧ください。

まず「自己評価」というものは、ハウカツの職員が実施をしているものでございます。

それから次の「委員評価」でございますが、こちらの委員評価に関しましては、この運営協議部会の委員の方に携わっていただきました。実際、こちらの評価につきましては、評価者のところに記

載のとおり、部会からは5名の委員の方にご参加いただきました。また、区の所管の課長も一緒にこちらで評価させていただきましたところでございます。

令和4年度、今年度が本格実施に移行して1年目というところでございます。昨年度までは直接ハウカツに行きましてヒアリングのほうを実施していたところでございますが、今年度はセンター長等に区役所にお越しいただいて、庁舎の中でヒアリングをさせていただき、評価をいたしました。この部会の委員、それから所管課長のうちから評価者3名を選びまして、ハウカツ25か所のヒアリングを実施いたしました。

次に「履行評価」「取組評価」に関しましては、委員評価に先立ち、区の職員により実施したものでございます。

評価の内容は、今年度4月から12月までの月報、ハウカツからの報告書を基に実施をしたものでございます。

次に「評価結果」でございます。お手元の令和4年度地域包括支援センター業務委託評価、別紙となっているものを御覧いただければと存じます。

こちらは基幹地域包括支援センターの評価の状況でございます。こちらを例としてご説明させていただければと存じます。

このハウカツの評価の評点の合計は、先ほどご説明させていただいた委員の皆様による委員評価と、区の職員による履行評価、取組評価、この3つの評価を総合した点数になっているものでございます。小数点第2位まで表されておりまして、この基幹地域包括支援センターの場合ですと、86.66点という点数でございます。

次に、評点合計の右側に平均がござい  
ます。この平均は25か所のハウカツの  
平均の点数でござい。平均は83点  
でございました。

続いて、すぐ右の結果が、「良好」と  
なっておりますけれども、評点の合計  
が8割以上の場合にこの「良好」という  
評価になるところでござい。

その下にグラフで表されてござい  
ますが、それぞれの平均の点数がグレーで示  
されております。

それから、ハウカツの評価が黒の点で  
表されているものでござい。

評価の項目といたしましては、右側に  
記載のとおり、「運営体制」から「寄り  
添い支援活動事業」まで10個が評価項  
目でござい。それぞれの項目、事業  
に対する評点が、例えば運営体制であ  
れば8.97点というところ、それから2  
5か所の全ハウカツの平均が9.03点  
というところとござい。このような  
形で25か所のハウカツの点数をまと  
めたものでござい。

また、評価委員の講評等がまとまり  
ましたら改めて、ご報告をさせていただ  
きたいと存じます。

恐れ入ります、元の資料のほうにお戻  
りいただければと存じます。1ページの  
真ん中より少し下のところ。今「評  
価結果」概要をご説明いたしましたけ  
れども、「良好」、「普通」、「不良」と  
いう形で、3つの評価で表しているところ  
とござい。まず「良好」というもの  
が、先ほど申したとおり評価の合計が  
8割以上というところで、令和4年度に  
関しましては、25か所中19か所のホ  
ウカツが「良好」、8割以上の評価で  
ございました。続いて、「普通」の評価に

つきましては、評価の合計点数が6割  
以上8割未満のところとござい  
ますが、こちらが残りの6か所のホ  
ウカツでございました。また「不良」に  
関しましては6割未満というところ  
とござい。今年度は1か所もない、  
0か所という状況とござい。

全体を見まして、水準をしっかりと保  
って運営をされているのかなという  
状況とござい。

この評価結果とござい  
ますが、今後公表を予定している  
ところとござい  
けれども、この部会  
の後に、地域包括  
ケアシステム推  
進会議のほうに  
報告をさせて  
いただき、また  
併せて区のホ  
ームページに  
今後掲載して  
いくことを予  
定している  
ところとござい。

続きまして、来年度、「令和5年度の  
業務委託評価」の実施方法とござい  
ます。こちらに関しましては、令和4  
年度と同様の  
方法で評価を  
実施できれば  
というところ  
で現在考えて  
いるところと  
ござい  
ますので、こ  
ちらについて  
ご協議をさ  
せていただ  
きたいと存  
じます。

なお、評価基準や評価項目等につ  
きましては、事業ごとに適宜見直し  
を行わせて  
いただきた  
いと考えて  
いるものと  
ござい  
ます。

協議事項1につ  
きましては、  
以上と  
ござい  
ます。

続きまして、報告事項のほうのご説明  
入らせていただきます。恐れ入  
ります、2  
ページを御  
覧ください。

件名「地域包括支援センター新田の  
プロポーザルによる事業者の特定  
結果について」とござい  
ます。

地域包括支援センター新田に関  
しましては、現在の受託法人から、  
このハウカ

ツの委託契約を今年度末までにしてほしいというお話がございました。地域包括ケア推進課としては、初めてでございますけれども、プロポーザル方式で、ハウカツの受託事業者を特定したところでございます。

3の項目にございますとおり、令和5年度に受託していただく事業者様でございますが、記載のとおり、社会福祉法人白寿会というところになります。こちらは区内の扇にある事業所でございます。

この白寿会でございますが、区内では特別養護老人ホームの「プレミアム扇」や、区外にも幾つか事業所を展開している法人様でございます。

このたびのプロポーザルでございますが、この白寿会を含め3事業者から申込みを頂きました。結果として白寿会が評価の点数によって選ばれたところでございます。こちらの白寿会の業務の期間は、項番6でございますが、令和5年4月1日から令和6年3月31日までの1年間でございます。ただし、こちらは毎年度、事業評価を実施させていただき、その履行状況が良好な場合には、最長5回まで契約を毎年更新していくというところでございますので、最長で6年間、更新ができるというところでございます。問題がなければ令和11年3月末まで契約が更新できる期間となるものでございます。

先ほど申し上げましたとおり、今回プロポーザルで、足立区で初めてハウカツの受託法人を決めさせていただいたところでございます。この間、昨年10月に公募をさせていただき、選定委員会を9月から12月までの3回にわたって開かせていただき、決めさせていただいたも

のでございます。委員の構成は記載のとおりでございます。

続きまして、3ページをお開きください。報告事項の2点目でございます。件名は「地域包括支援センターによる高齢者の実態把握について」でございます。令和4年度の4月から12月までの実施状況についてご報告をさせていただきます。

実態把握の「目的」、項番1でございますが、介護が必要になる前から、また介護が必要になった後も、しっかり適切な支援ができるようにというところで、各ハウカツの職員による訪問などにより実態把握を実施し、早い段階から高齢者の皆様に接して、対応と情報の蓄積を行うことが目的でございます。こちらは、注釈で記載のとおり、令和2年度から、「後追い支援」から「予防的支援」、事前にしっかりハウカツからアプローチしていくというようなやり方に入っているものでございます。ということで、実態把握を現在強化して実施してまいります。

実態把握の対象者の抽出方法につきましては、要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の方に介護予防チェックリストを送付させていただき、そのチェックリストの結果、それから孤立ゼロプロジェクトの結果をもとに抽出をしているところでございます。

項番3でございますが、「実態把握対象者の内訳」でございます。まず1つ目が、何らかの支援が必要だと思われる方というのが対象者になります。先ほど申し上げた介護予防チェックリストをお返しただけなかった方や、チェックリストをご返送いただいても未記入の箇

所がある方は、こちらの対象とさせていただきます。また併せまして、チェックリストの中から、認知症の疑いがある方や、さまざまな支援が必要である方というものを抽出させていただき、その方を対象としているものでございます。

また一方で、(2)にございますとおり、地域活動に意欲があると思われる方もチェックリストの項目で抽出できるようになってございますので、積極的に地域で活躍していただだけそうな方もこちらで把握をさせていただき、実態把握の訪問等をさせていただいているところでございます。

項番4に実施方法がございますが、戸別訪問を初め、記載のとおり、窓口や電話での対応も含めて実施をしているところでございます。

次に4ページを御覧ください。「実施結果」でございます。令和4年度の4月から12月の実態把握数でございますが、3万7,312人の方に実態把握の訪問等を実施いたしました。その実施状況でございます。(2)の「内訳」のところでございますが、何らかの支援をした方が2万6,461人ということで、全体の63%でございます。支援の内容といたしましては、介護予防教室のご案内や、介護保険の申請などを勧奨したものでございます。

続いて、実態把握の中で、地域づくりや社会参加につなげた方という方が929人いらっしゃいました。全体の中では2%でございますけれども、このような方にはぜひとも積極的に地域の中で関わっていただき、高齢者をしっかり見守っていただいたりですとか、地域のリーダー

ーとしてご活躍いただけるように、さまざまな生活支援サポーターの講座であったり、自主グループのリーダーを養成するような研修のご案内をさせていただいたところでございます。

続きまして5ページをお開きください。報告事項3でございます。最後の報告事項でございます。件名が「地域包括支援センター支援システムの構築状況及びスケジュールについて」でございます。現在、この支援システムというものの導入に向けて、今年度、準備をしております。今年度、新システムというものを25か所のホウカツをオンラインでつなげることによりまして、区で持っている高齢者の情報をホウカツでもリアルタイムで把握ができるということと、ホウカツで相談業務等を行っていただいた際、記録を入力していただければ区のほうでもリアルタイムに把握ができ、また今後の高齢者の施策にさまざまなデータをつなげながら生かしていければということ導入を進めているものでございます。

これまでは、区と25か所のホウカツで情報がオンラインでつながっていない状況であり、それを改善していくということで、令和5年5月11日から本格稼働するものでございます。令和4年度は、実際に回線をつなげるような工事等にも入ってございまして、先ほどのホウカツ新田は来年度切り替わるということで、どうなるか分からなかったということもありますので、回線のほうについては、新田を除く24か所で既に実施をできているものでございます。また併せて、そのオンラインのシステムでございますが、今、操作研修等を、区の職員や

各ホウカツの方にご参加いただき、進めているものでございます。

スケジュールにつきましては、一番下の項番5に記載のとおり、2月に職員向けの研修や、テスト環境での操作練習等を3月から順次進めさせていただき、4月からは、相談記録は先行して入力ができるような環境を整えてまいりたいと考えているものでございます。5月11日には本稼働ということで実施をしてまいりますので、これ以降はほぼリアルタイムで区と25か所のホウカツがオンラインでつながります。

そうなれば、今まで、例えばホウカツに相談に来られた高齢者の方の情報が、本人がスムーズに話せばいいのですが、本人がスムーズに話せなかった場合には区のほうに電話などで問い合わせなければ分からなかったところが、オンラインでつながっているシステムを使うことによって検索ができ、すぐに分かるというようなところで、現場のホウカツにおきましても相談が非常にしやすくなるのかなというところがございます。

また併せて、区といたしましても、先ほどの相談記録だけではなく、さまざまなデータをこの中に蓄積し、分析していきたいと考えてございますので、そのようなデータから、今後のそれぞれの地域の高齢者の動向を読み取りながら、それぞれの地域ごとにどのような施策を打っていけばいいのかというところもしっかり分析でき、効果的な高齢者施策につなげていけるのかなと考えているものでございます。

こちらをしっかりと運用していきながら、さまざまな改善をしていきながら、より区民の皆様役に役立つものにしてい

ればと考えているものでございます。

私からは、概要でございますが、説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○大口部会長 ありがとうございます。ただいま、協議事項として業務委託評価、そして報告事項は、プロポーザルと高齢者の実態把握、そしてシステムという4点の話をご説明いただきました。今、ご説明があったことについて皆様からご質問、ウェブの方も含めてになりますが、ありましたら、ぜひ皆さんからいただければと思います。いかがでしょうか。

○和田忍委員 ご説明ありがとうございます。

確認でございます。資料1の、ホウカツの業務委託評価についてなのですが、数値化できるポイントというのは基本的に点数化されて出てきたかと思いますが、質の部分というのはどのような形で反映してきたかどうかというのは何か尺度がありましたら教えていただければと思います。

○柳瀬課長 まず、今回の評価でございますが、履行評価、取組評価、こちらは区の職員のほうで実施しているものでございます。こちらに関しましては、まず実績の数値などを基に、客観的に評価を実施させていただいてきたところがございます。

質的なところについては、例えば取組評価の中では、どういうようなところに工夫をして、より実績を上げられるようなやり方をしてきたかというところが読み取れるのではないかと考えてございます。

また、委員評価については、各委員の

皆様にヒアリングをしていただき、それぞれのハウカツの特徴というものをつかんでいただいたところでございます。そういった中では、点数に表し切れないところにつきましては、委員評価のコメントなどでこのハウカツの特徴というのは出てくるかと私どもは考えてございますので、今回この全体を総合しての結果というところで評価してまいりたいというところでございます。

○和田忍委員 ありがとうございます。分かりました。

○大口部会長 そうですね。数字だけだとなかなか分かりづらいところがあるので、実際にお話を聞いた方々のお話を後ほどお聞きしたいなと思うのですが、いろいろ見えてきたところを、令和5年度に向けての取組課題にしなければいけないと思いました。ありがとうございます。

そのほか、皆様からいかがでしょうか。

○中村委員 4ページなのですが、足立区の65歳以上がたしか17万人くらいいるでしょう。その割には件数が少ないなという気がします。この内訳の3万7,000人というのは少なくないですかね。もう少し件数を重ねる必要がある気がします。

だから、友愛クラブなり何なり問い合わせさせてくれれば、友愛活動をやっていますので、2人1組で訪ねたり、電話で安否確認をしたりしていますので、そういうところへコンタクトを取れば、情報の問題はあろうけれども、ある程度力になれると思うのです。

○柳瀬課長 ご意見ありがとうございます。

先ほどの説明に補足させていただきます。ハウカツによる実態把握につきましては、対象者を主に介護予防チェックリストの対象者の方の中から抽出をしているところでございます。

介護予防チェックリストを送らせていただいているのが65歳以上の方。先ほど委員がおっしゃられた17万人のうちの、要支援・要介護認定を受けている方をまず除かせていただいております。そうすると、3万7,000人くらいが要支援・要介護認定を受けていらっしゃるの、まずその方を除外するので、14万人弱くらいになるのですけれども、さらにその14万人くらいの方を3つに分けて、3年に1回送らせていただいているところがございますので、実際は元々の対象というか、チェックリストの対象者が4万数千人というのが1年ごとになります。

その4万数千人のうち、何らかの支援が必要だと考えられる方という方が主な対象の方となっているところがございますので、実態把握の件数としてはこのような結果となっているものでございます。

確かに、委員がおっしゃられたとおり、さまざまな友愛クラブの活動、もしくは区のほうでも今、孤立ゼロプロジェクトというところで、また別の視点からの把握をしているところでもございますので、実態把握としてはこの数ではございますけれども、区としては関係機関、友愛クラブ様も含めて、協力をさせていただきながら、連携を図って、高齢者の皆様の全体の実態の把握には今後も努めてまいりたいと考えているところがございますので、ご協力いただければと思います。



ます。よろしくお願ひいたします。

○中村委員 了解はしているのですけれども、このグラフの中に「地域づくりや社会参加につなげた方」が2%というのがある。これは少しさびしいですね。

私は地域でいろいろな事業をしていますけれども、もう少し地域づくりに関心のある方が増えていいのではないかなと思っています。これは認知症の問題にも関わってくることだし。やはり社会参加することが認知症を予防する上で最も重要だと私は思っているのです。

○柳瀬課長 ありがとうございます。

○大口部会長 ありがとうございます。

私もこの部分については皆様と確認していきなと思っていたところで、今、中村委員からお話がありましたが、私自身は実はほかの市区町村とかを見ていたりするので、本当に数十万人規模の足立区の人口で、やはり25か所のハウカツがあるといえど、1年間で3万8,000人と、4万人近い方のお宅に訪問して実態を把握できているというのは大きいなと。

これが、またコロナ禍ということの制約等もあったと思うので、本当はもっともっと事業を行いたいという気持ちを持っていらっしゃる方々が、地域の方々や、ハウカツの方々にもいらっしゃるのではないかなというところで、そこはすごいなというところが1点ありました。

あと2%。パーセントにしてしまうと2%なのですけれども、実数で見ると、1,000人くらいはそういう方につないでいるということです。毎年1,000人くらいつなぐことができるならば、そうすると、2、3年経つと3,000人という形で、確かに人口規模からした

ら少しなのですからけれども、これだけの、要するに1つの村とか町レベルの人数を発掘できているというのは素晴らしいかなと思います。

ただ、地域の関係者とこれから連携して、いろいろな形でやっていくということと言うと、コロナが5類になっていくような話がある中で、今年と同じような形で実施していくとは思いますが、今後の方向性や見込みとして次年度以降どんな感じに、実態把握の想定をされて、システムとの関係も含めてどうなっていくのかをお聞きしたいと思います。

○柳瀬課長 実態把握に関しましては、引き続き、区としての姿勢としては、コロナ禍がまた状況が変わってきているところもございますので、より積極的に実施していきなというところがまず1つ。あと、先ほどの資料を補足させていただくと、先ほどの「地域づくりや社会参加につなげた方」というのが929人という形ではございますが、これはどちらかという支援する側の方たちを把握して、地域で頑張っていたきたいという方にいろいろな案内をしているところでございます。

ですので、実はこのアのほうの「支援した方」につきまして、例えば自主グループを案内した方は6,400人ほどいらっしゃいます。ではこの方たちで自主グループにどれくらいつながっているかということまでは全て把握し切れていないわけではございませんけれども、自らすごく積極的に地域づくりを行うというよりも、いわゆるみんな、地域の中に参画をしてやっていこうという方の中にはイで表されていない、アの中にも地域

でしっかりつながっていただいている方がいらっしゃいます。そういう意味では、地域の中に今まで例えばつながりがなかった方がこの実態把握の訪問を契機として地域の活動に入っていただいているという方も恐らく相当数いらっしゃるのではないかなと考えております。引き続きそのような地道なところを、実態把握やさまざまなハウカツの活動を通して地域につなげていくような取組はしてまいりたいと考えているところでございます。

○大口部会長 ありがとうございます。

○鶴沢委員 居宅介護支援部会の鶴沢です。よろしく申し上げます。

先ほどの和田忍委員の話とも重なるのですが、やはり質的な評価。私も自分でケアマネジャーの仕事をしていまして、例えば何件給付管理やったとか、今月は何件訪問したという、数値的に出せるものは出す。これは必要なことだと思うのですが、やはりなかなか質のところは数字で表せないことが本当に多いというのは実態として思います。

その中で、例えばこの予防的支援に注力して、実態把握に力を入れている。ハウカツさんがこれに本当に力入れているなということは現場を見ていても思いません。しかし、いろいろな評価軸はあるかと思うのです。

予防的観点で早期から関わることによって、例えば要介護認定につながる方の数が減るのか、逆に掘り起こすという意味で増えるのかとか。いろいろな数値を見ていく必要があるのかなと思うので、予防的な支援の効果検証にどう現れるのかというのはなかなか単年度では難しいかもしれませんし、いろいろな評価軸も

あろうかと思っておりますので、この辺も慎重にやらなければいけないのかなというふうには感じたところです。

このグラフなのですが、例えばざっと全ハウカツを見ると、例えば総合相談の項目だけが平均点より低い事業所が多いです。これは何か要因というのはあるのでしょうか。ここの項目だけがところどころ低いと思うのです。コロナのことと関係しているのかとか、何か要因の分析ができていますかどうかお聞きしたいです。

○柳瀬課長 こちらの総合相談に関しましては、実態把握の訪問がしっかり、もともとやるべき数までできているかというところが非常に大きく影響してくるところでございまして、やはりコロナ禍の中でなかなかやり切れなかった部分がたくさんあったということで、残念ながら比較して点数が低くなっているという状況ではございます。

○鶴沢委員 コロナの影響ということですね。

○柳瀬課長 それが大きいのかなと。

○鶴沢委員 分かりました。ありがとうございます。

○大口部会長 ありがとうございます。

今お話があった実態把握の予防的支援の話、そしてまた総合相談の業務評価の話もあったと思います。もしかしたら手間をかけてしまうかもしれませんが、今事務局からお話があった、それぞれの評価の平均点に波がありますよね。足立区全体としての平均という形だと、多分足立区の現状の点数みたいな、総合得点になっていると思います。もしかしたら総合相談とか医療介護連携とかも、恐らくコロナの影響とかそういった形で、足立

区全体として今こういう状況にあるみたいなのを補足しておく、毎年毎年積み重ねたときに、初年度はこうだったけれども、次年度以降、点数が上がったとか、状況によっては説明が後ほどの方に引き継げるのではないかなと。鵜沢委員が今おっしゃられたような形で気になる方も多いかとは思っているので、ご検討いただいてもいいのかもしれないですね。

○柳瀬課長 評価の表記の仕方等も含めて、今後検討させていただければと思います。

○茂出木委員 今回、新田のプロポーザルによる事業者の特定ということで、2ページで、良好な場合、最長5回まで更新できるとありましたけれども、今まででこういう方式をとったのは初めてですというようなお話を伺ったような気がするのです。そうすると、実際、新しくスタートして令和11年の3月までやっていただいたその後も同じような方式を取って選定を行ってからということになるのですか。

良好な関係でずっとしてきてくださったところは、実際の契約の上限まで来たら、契約を継続することはできないのでしょうか。

○柳瀬課長 区としては、新田だけではなく、ほかのハウカツもしっかり評価をした上で、継続するかどうかを決定していかなければならないと考えてございます。

当初、平成18年にハウカツができた際には、前身の法人にお願いをしてきたところでございますけれども、今、先ほど申し上げた新システム等も導入していくという中で、さまざまな分析もできるようになってくる。情報も区としても把

握できるようになってくるということになってまいりますと、今回、評価のほうも、今年度、本格実施1年目でございますけれども、この評価も積み重ねていった上で、やはりしっかり評価に基づいた事業者の選定をしていかなければならないと考えてございます。

ですので、新田はたまたま今回、受託法人様が撤退されるということでございますので、イレギュラーの形で、区が考えていたより少し前にこのような形でプロポーザルになりましたけれども、今後は残りのハウカツに関しましても順次プロポーザルのほうを、来年すぐというわけではもちろんないのですが、一気に24か所全部ということもできませんので、まだあくまで案ではございますけれども、常時何か所かずつプロポーザルで評価をしながら選んでいきたいと考えております。

結果として、今実際に受託していらっしゃるところが力を持っている場合が多いかと思しますので、もしかするとプロポーザルを行っても、そう簡単に受託法人は変わらない、今契約している法人様が続けていくケースが多いのかなと想像はされます。ただ、そういった中でもしっかり評価を積み重ねて、その評価を基に、今後は順次競争性もしっかり担保しながら、実施してまいりたいと考えているところでございます。

○大口部会長 今回は、新田のプロポーザルということがあったわけですがけれども、今後は25か所のハウカツについて、プロポーザルなどでまたしっかりと見ていくということも予定されているということでしょうか。

そうなってくると、実際に今、業務委

託評価という形でこの数年間ずっとやってきてはいますが、恐らく、業務委託評価というものは委託されているものができているかという評価ではあるのですが、プロポーザルになると、それぞれの強みというか、こういうところが売りですみたいなことを話してくるところも出てくるとは思うので、業務委託評価で業務を行えているかどうかということを見つつ、プロポーザルで、強みを見ていくとか、そういった組合せとかが今後できるといいのかなというふうに話を聞いていて思いました。

○和田忍委員 関連で確認なのですが、25か所のハウカツを順繰り順繰りプロポーザルでやっていくとなると、1年間に何か所くらいずつやっていくことになるのですか。それによってだいぶ年数がかかるのかなと感じたのですが、この辺はいかがでしょうか。

○柳瀬課長 まだ正直なところ、具体的にというところまではないのですけれども、いろいろ案としては考えているところはございます。ただ、今委員がおっしゃられたように、プロポーザルは、委員の皆様もそうですし、労力がかなりかかるということもございますので、現実的に25か所一度にというのは難しいかなと考えておりますので、そういった中では何か所かずつ順次やっていくというのが現実的なのかなと考えているところでございます。

○和田忍委員 分かりました。

○村岡委員 実態把握が3万7,312名ということですが、今後、いわゆる団塊の世代が後期高齢者に入ることによって、かなり多くの高齢者が出てくると思います。ハウカツが25か所ですけれど

も、不足しないのかが心配なのですが、その辺の考え方はいかがかなと思いました。以上です。

○柳瀬課長 今後、高齢者の方が増えていくという中で、ハウカツ25か所で不足しないのかというお話でございますが、区としての考えとしては、今の25か所のハウカツでしっかり対応ができるかなと考えているところでございます。実際に、高齢者の人口等をしっかり把握をさせていただきながら、場所を増やすということではなく、ハウカツの体制をさまざまな対応ができるように、しっかり考えていきたいというところでございます。

○村岡委員 ありがとうございます。

○大口部会長 ハウカツの数という形で組織を増やすのではなくて、人員を厚くして対応していくという方向性ということですね。ありがとうございます。

あと、私からもよろしいでしょうか。ハウカツの運営協議部会という形という立場からすると1点ご質問しておいたほうがいいのかなというのが、プロポーザルで新田が変わって、4月1日からスタートということになっております。プロポーザル自体は、秋から年末にかけて実施されたということで終わっているという状態で、受託事業者が決まっているところなのですが、今2月になりますので、あと1か月半くらいで開始されるという状況だと思うのです。ここら辺の、うまく引き継ぎだとか、いろいろな状況とかがあったりすると思うのですが、そこら辺は進行状況というのは大体どんな感じだったりするのでしょうか。

○柳瀬課長 まず、今回、白寿会というところで新たに来年度受託していただ

ることになったところでございますが、1月には区のほうから説明会を開かせていただき、事業のほうのご説明をさせていただきます。2月に入ってから、事業者間での引き継ぎというものも順次実施をしているところでございます。区としてもその辺り、4月以降の業務もしっかり区民の皆様にご迷惑をかけることがないように、受託法人様と一緒に引き継ぎのほうを確実に実施してまいりたいと考えているところでございます。

○大口部会長 では1月から動いていらっしゃるということになるわけですかね。分かりました。

もう1点、システムについてお伺いするのですが、先ほどお話しがあったシステムに入力される情報はとてもたくさんあると思うのですが、実態把握とか前提とされているところの情報とか、そういったものも打ち込む、いろいろな形で反映されていくという感じだと思うのですが、そことのつながりですかね。実態把握とシステムのつながりだとかを、多分今までも説明があったかもしれませんが、改めてもう1回確認しても大丈夫でしょうか。

○センター担当 令和5年5月に導入されます福祉の森には、ハウカツの相談業務は当然ながら、実態把握の結果を同時に入力することが可能でございます。ですので、実態把握に行った後の結果をこれから積み上げていくことによって、分析を行い、今後の区の施策等に反映できます。

○大口部会長 ありがとうございます。

ということは、ハウカツがこの十何年ずっと積み上げてきたいろいろな関わりケースと、これからの実態把握も加わ

ってというケースになるわけだと思います。恐らく実態把握で、いわゆるチェックリストを送られた方、限定とかいう形の、要するにまだ普通にお元気な高齢者の方とかにアプローチとかも普段はされているわけですが、潜在的な方がいるかもしれないという状況だと思うのですが、先ほどの人数の話もあつたわけですが、おおよそ足立区全体のどの程度の高齢者の方をカバーしているみたいなの、そういった数値とかも今後もしかしたら出てくるかもしれないということですか。

○センター担当 そのとおりです。

○大口部会長 そうすると、ハウカツが関わっていないような方々がまだどれくらいいて、また、関わっている方はどれくらいいたりという形でまた見方が変わってくるということですね。

○センター担当 おっしゃるとおりです。

○大口部会長 ありがとうございます。

他にお気づきの点などございますか。

○中村委員 私は1万人の介護者家族会で電話相談をしていたときに、相談を受けたときに、お宅の近所にハウカツがあるではないですかと言ったのです。そうしたら、そのハウカツへ訪ねて行ったら、その日のうちに、あそこのおばあちゃんはぼけたのではないかと、具合が悪いのではないかとということが一晩のうちに伝わってしまいました。

地域性があると思いますよ。相談したら、「ハウカツがありますよ。行ってください」と気楽に言うけれども、なかなか高齢者はハウカツに行かないですよ。だから、地域全体がもうそういうことを抜きにして、皆さんで、「それは大変だ

からお手伝いしましょうか。」くらいにならないと、よくなるなど。

あれにはびっくりしました。嫌だと言うのですよ。ハウカツに行って相談してくれればいろいろ受けてくれますよと言ったけれども、行くのが嫌だと言うのです。その日のうちに噂になってしまう。これは特異性があるかもしれないけれども、そういうことがあるということを加味していただきたいということでございます。

○大口部会長 いろいろ進めていくと、個人情報保護、でも一方では情報を共有していかないと見守れないということもあるわけですかね。多分、そういったことも研修でハウカツにはいろいろ伝えているという状況ですかね。

○柳瀬課長 そうですね。今委員がおっしゃられたような、本当にケースバイケースだと思うのですが、いろいろな地域の状況はあろうかと思えます。そういったものがこちらで把握できた際には、そういったことがあったということで、共有を図りながら、区民の皆さんがご不安にならないような形で運営をしていきたいというところで、これからも努めていきたいと存じます。

○中村委員 まだまだ認知症などという、全て何でもできなくなってしまうように考えてしまうけれど。そうではないです。私のクラブでも認知症の役員が2人いました。役員の中でも私、非難されましたよ。認知症の人を選出したってしょうがないではないかと。だから私は来て邪魔をするわけではないし、ちゃんとお知らせが行くから何日だというのが分かるわけだから。ここに出てくるのが大事で、その人を否定するようなことで

はないよということで役員を説得したのです。それで何とか納得してくれましたけれどもね。それでいて全般的には、社会全体で見ましようとか言っている。まだそこまで到底行っていない。

だから、私が今考えているのは、定年直後の男性でもいい、女性でもいい。定年後にどうするかを図る何か講習みたいなものをしてください。せつかく現役で会社人をやっていて、人事課とか会計とか得意な分野があるわけなのだから、これを生かさないで社会資源がもったいないですよ。

○大口部会長 ハウカツでも、教室はそういった形で開いていらっしゃる部分もありますよね。男性の介護者教室とか。

貴重なご意見です。そういったところの理解を深めていきながらというところと実際の現状というところをどううまくやっていくかということですね。

○中村委員 そうしないと駄目です。だって会社では部長さんかもしれないけれども、地域では関係ないですからね。その辺を理解してもらわないと困る。

○大口部会長 ハウカツの実態把握での難しさでもあるかもしれませんね。

○中村委員 そうなのです。だからその辺で、やはり定年間近になった人を啓蒙したほうがいいです。そのほうが早い。

○大口部会長 いろいろな角度で対応、アプローチをしていくことですよ。ありがとうございます。

ご質問のある方いらっしゃいますか。

○鶴沢委員 質問なのですが、システムの目的のところ、「互いに保有する情報の一元管理」とあります。そうすると、ハウカツさんに来た相談の内容などを打ち込む。それが見られるわけです

ね。互いにといって、逆に区が持っている情報をハウカツの中でも見られるということなのでしょうけれども、具体的にはどういう情報を共有するのですか。

○柳瀬課長 具体的には、基本となる住所、氏名等はもちろんなのですけれども、介護保険の情報、要介護の情報であったり、期間であったり、認定情報です。どこの支援事業所に入っているのですとか、諸々の介護保険に関わるような情報が、今まではもちろん何も、電話で聞くしかなかったことが、各ハウカツからも検索ができるという形になっていきます。

○鶴沢委員 全職員が与えられた端末で見られるわけですね。

○柳瀬課長 その地域のハウカツの方、お住まいの方の情報が確認できるようになっています。

○鶴沢委員 何か相談ごとがあったら、そこに入力をまたするようなことなのでしょうけれども、入力自体はハウカツさんだけがすることであって、行政の方が何かそこに情報を加えるということはあるのですか。

○センター担当 できますけれども、あまりないと思います。

○鶴沢委員 例えば、ある区民の方が行政の窓口に来られて何か対応したなどということは、一々そこで入力をするわけではないということですね。

○センター担当 はい。ただ、こちらに来るといってケースはあまりないです。

○鶴沢 ほぼハウカツさんですよ。

○大口部会長 そうなってくると、実際にハウカツが把握をしていないということも、こちらのほうで入っている情報

みたいな形も見ることができるのですか。

○センター担当 原則、区では入力はないので、逆に区に突然いらして、ハウカツと関係があれば端末をたたいて、どういう人と関係があったということは分かります。

○大口部会長 ハウカツのほうで特に把握していなかった介護状態の方、要介護の方が、検索をすれば、区の情報で見られるという形になっているのですね。

○センター担当 そのとおりです。

○柳瀬課長 今までハウカツから区民と接触がなかった方でも、初見の方であっても、基礎情報がすぐ分かるので、対応がしやすい。御本人は、必ずしもご自身のことを言えない方とかもいらっしゃると思いますので、その辺りは、今までだとしっかり聞き出さないと対応が難しかったケースが、対応をよりしやすくなるのかなというのは思います。

○大口部会長 では、今後は今お話があったような形で、いろいろな可能性があるシステムだと思うので、導入が終わった後は、またしばらく経って、ユーザー側である役所やハウカツとかで使ってみた感触とか、今後の活用方法みたいなことをまた検討される予定があるということですか。

○柳瀬課長 ちなみになのですが、今、資料の目的の(1)のところ、「それぞれ異なるソフトを導入して情報を管理しており」と書いてあるのですが、結局、今各ハウカツでは、法人さんごとにあるソフトを利用しているケースがほとんどで、そこに今でも相談記録が入力されています。相談記録だけではなく、いろいろな管理はしてございますので、そ

れが今回、区と統一したシステムに入れ替わるような形になってくるので、負担的には確かに、最初はもちろん慣れないものですので、ご負担はあるのかなとは存じますけれども、業務の中での記録等の考え方としては、慣れればそこまで大きくはないと考えています。

○大口部会長 その相談の目的が、例えばただの相談なのか、あるいは何か具体的なものなのか、実績報告を上げる作業があると思うのですが、そこに何か簡単につながるような、例えばチェックがつけられたりとかはありますか。

○センター担当 実際に、選択する項目を多数用意してありますし、マニュアルを作成し、全ハウカツで共有します。それをチェックしますと自動的に月例報告が出ますので、負担は軽減されると思います。

○大口部会長 少なくとも1年くらいは様子を見て、いろいろな形の運用を考えていくみたいな感じになりますかね。ハウカツの方々も最初の入力は結構大変な動きだと思いますから。

○柳瀬課長 先程のお話にもありましたが、今まで紙で区に報告を出さなければいけなかったものが自動で集計できて出てきますので、その部分は負担が逆に軽減できるものもあるかと考えております。

○大口部会長 楽になればいいですね。

○花田委員 歯科医師会の花田でございます。今のシステムのことでお聞きしたいのですが、各ハウカツから情報を入れますよね。区のほうではそれを見ることができる。ここのハウカツが入力したものを、区のほうではなくて、ほかのハウカツの人たちも見ることができるのです

か。

○センター担当 できません。

○花田委員 できないのですよね。あくまでも区が見るだけですよね。もしほかの情報が見られたらまずいかなと今思ったものですから。そのようなことはないわけですね。ありがとうございます。

○大口部会長 協議事項ということで、業務委託評価のほうについては、皆様で協議や、情報交換するという含めて可能であれば、今回、業務評価についてお時間を頂いた、委員評価を実施いただいた委員の皆様から順番にご意見を頂ければなというふうに思うのですが、よろしいでしょうか。

最初に、ウェブからという形で、村岡委員、実際に委員評価に関わってみてというところの感想だとかご意見などを含めていただけましたら。よろしく願いたします。

○村岡委員 私も初めてやったのですがけれども、意外ときめ細かく構成されているので、私の分からない部分でも少しずつ理解できました。項目が分りやすかったと思います。以上です。

○大口部会長 ありがとうございます。

では、茂出木委員いかがですか。

○茂出木委員 この評価は2年目になるのですけれども、報告書が小さな文字で大変でした。担当したハウカツがかなり多かったものですから、かなり自分自身苦勞しました。

やっている中で、ハウカツさんで、あんしんネットワークに関して質問などもさせてもらったのですが、その中で協力員さんとか協力機関さんの名前が共有はされていないのです。要するに個人情報なのでということで、各ハウカツさんは



持っていても、そこの協力員、私たちみたいな専門協力員は誰がやっているのかという名簿を持っていない。それで、よく分からないまま話し合いの場になって、そのときに出てきた方のお顔は分かるのですけれども、結構入れ替わったりすると、何人くらいで、どんな地域の機関の人が登録してくれているのかが分からないまま。ただ、これは公開できませんということだったので、「協力員さん同士のネットワークとかがつくれるといいですよ。」みたいな話は出ても、誰がやっているのかは分かりませんでした。

これは、絆づくりさんのほうの話なのかとは思うのですけれども、何かいい方法はないのかと。例えば協力員さんで、自分は名簿に載せてもいいですよという方だけでも出して、機関の人の了解を得ればつくれますよね。だから、そんな方法でもないと、かなり増えていますと聞いても、一体誰がやっているのかがよく分からない。地区のものとしては何かいい方法ないかしらということを考えています。ほかの、今回の評価のときにいろいろお尋ねした中でも、「そうですね。」みたいなお話もあったので、今後の課題なのかなというふうに感じました。

○大口部会長 ありがとうございます。すごく貴重なご示唆かなと思います。

和田忍委員、いかがですか。

○和田忍委員 今回、やり方が変わって、45分間で聞き取っていくというやり方で、初めてだったので結構戸惑うかなと思ったのですが、事務局のかなり入念な準備をしていただいた関係もあって、時間が過ぎるというのはなかったの

です。また、結構ポイントで意外と聞けるのだなということが分かりました。やり方を変えた心配があったのですが、変える前と比べて聞き漏らしはあまりなかったような気がしました。やり方はすごく合理化でき、実際の委員評価の質自体も下がった気がしなかったというのが率直なところです。

この辺、毎年工夫を頂いているので、本当に実は私も言っていたのですが、字の小ささには少しついていけなくなってきました。でも実際には評価のほうは無事にできたというのが印象です。ありがとうございました。

○大口部会長 ありがとうございます。

実施方法だとか、あとは資料のことについても、また次年度につながるころはいろいろあるかなと思います。ありがとうございます。

中村委員、今回、参加が難しかった部分があったかもしれませんが、評価自体はいかがでしょうか。

○中村委員 少し感じたことですが、たしか今、こちらの委員の方が言われたように、あんしん連絡会があって、機関としてうちのほうは登録しているのですが、友愛クラブに入ってくれば大体のことは分かるのです。そのほかの人のことは分からないから、ある民生委員さんに教えてくれないかと言ったのですが、個人情報の問題で駄目ですと頭から言われてしまった。確かにそれは分かるのだけれども、共有しないことにはどうしようもないでしょうと。

あるかどうか分からないけれども、直下型地震でもあったときに、皆さん全国から来てくれる。でも持っていないのは情報なのですよ。この情報がある程度共

有していれば助かる率が上がると思うのです。ここのところが何とかならないかなと思いました。やらないことの隠れみのになってしまっている。それが少し悔しいなという気はしないでもありません。以上です。

○大口部会長 ホウカツに業務委託評価という形ではあるのですが、話を聞いてきて見えてきた課題というところは、今議論していますけれども、似たような形でホウカツ、地域、ブロックだとかでいろいろなところで議論して、また区の中でも議論いただくということが大事なのかなというところも思います。

今、いわゆる絆のあんしんネットワークの話もありましたけれども、そのほかにも、この業務評価の中では、例えば保健センターとの連携の難しさだとか、うまく行っているところもありますよという話だとか、実態把握をやっていく上でのポイントだとか、また、運営体制をこう工夫していますよということから、チラシの工夫だとかという形で、それぞれのホウカツが取り組んでいるということの部分で見えてきたよさだとか、あと課題といったことが出てくると思うのです。

今回は評価の本格実施が初年度ということではあるのですが、しっかりとまた次年度以降、見えてきた課題というものを、親部会の地域包括ケアシステムの推進会議のほうにもつなげて議論いただけるような形をつくっていければいいかなと思うところです。そういった意味で言えば、数字で見えてきたところだけではない、質の部分はどう見るかという話とかもちろんありますが、それぞれのホウカツが頑張っているところとつ

まずいているところをうまく吸い上げて、こういうふうな議論をもっと大きなところに出していけるような仕組みになればいいなと私は思っていました。

それを踏まえて、事務局からはいかがですか。

○柳瀬課長 そうですね。今、部会長がおっしゃられたように、これまでも評価を実施してきた中で、試行ではございましたけれども、令和4年度本格実施という形でございます。今、委員の皆様からさまざま貴重なご意見を頂いたところでございますので、また、本格実施の中でもさまざま改善を図っていきながらというところで考えておりますので、今のご意見をしっかり生かしていきながら、また来年度につなげていきたいと考えているところでございます。

○大口部会長 あとは、数字の部分についてですが、皆様も数字を御覧になっていかがですか。私もこの数字が出てくると、低いところ、高いところとかをどうしても見てしまう。これは公表されてくるので、いろいろな見方と解釈ができてきて、私たちの役目も大きくなるなと思っ

ただ、1つちゃんと把握しておかなくてはいけないのが、数字で出てきている、「普通」というところから見ると6割から8割と書いてあるのですが、一番数字が低いところでも75点、74点だったりするわけですね。高いところも100点なのかといえどそうではなくて、90点という形で、まだ伸び代があるという状態だったりするわけなので、上を目指す、伸び代をもっと伸ばそうと思えば伸ばせるホウカツさんもいっぱいあり、また、低いところが底辺という話

なのかといえそうではなく、本当に6割ではなくて75%くらいのレベルだということだったりすると、足立区全体としては、柳瀬課長から話があったとおり、かなり高水準を保っている部分があるかと思えます。

これがやはり積み重ねてきたホウカツのものだったりすると思えますので、ここにある意味、公式のスタートラインではあるのですが、次年度以降、それぞれのホウカツさんが自分の位置を見て、どんどん上がっていくにはどうしようかなということを、改善して行ってという形で、この数字自体は単年度で見るのではなく、次年度、次々年度という形の長期的スパンで見る必要があるのかなというところを、数字の解釈という意味では、その部分をはっきりしておいたほうがいいかなと思いました。

○和田忍委員 すみません。今の数字の解釈の関係で少し確認なのですが、公表に当たって、今の点数が例えば86点とか90点とかというのはあるのですが、これは実際に4つある評価の中の履行評価と取組評価の結果で出しているという形になりますか。

○柳瀬課長 履行評価と取組評価、委員評価、この3つの評価を基にしています。

○和田忍委員 委員評価も入ってこの点数という形。では、そこの注釈みたいなものは、例えば発表されるときに、この3つの評価の合計でこうなりましたというのは、どこかに注釈は入りますか。

○柳瀬課長 そうですね。今、各ホウカツのこういう形でのまとめでございますが、まとめるに当たってどのような評価を基にまとめたかというところは分

かるような形で表記をさせていただきたいと考えてございます。

○和田忍委員 ありがとうございます。

ちなみに自己評価というのはやはり公表対象に入るのですか。

○センター担当 いいえ、入っていません。

○和田忍委員 入っていないんですね。分かりました。ありがとうございます。

○大口部会長 何らかの概要みたいなことを示す紙をつけて、その詳細みたいな、そのような感じになるわけですね。

○和田忍委員 そういう意味では、このレーダーチャートに違和感があるのが、どうしても平均点を出していますから、何となく相対評価で低いというところ。点数はもう及第点以上なわけですから十分だよということが逆に伝わらない。違う解釈を与えてしまいかねないレーダーチャートだなというふうに思ったのです。平均点が載ることで、例えば頑張らなきゃということのモチベーションにつながる効果はあるかもしれない。それはいいと思うのです。ただ、点数ばかり追うようになってしまって、先ほどの質の問題、あるいは区民の方に公表となったときに、「あ、何だ、うちの地域はこんなのだ」と。でも及第点以上なのだということが、逆にそちらも分からないと、あらぬ誤解を与えるかなというふうに感じました。

○大口部会長 多分、これはまだ最終確定版という形ではなくて、これから公表に向けて動いていくということですよ。今のお2人の意見も踏まえた上で、ご検討いただければと思います。

○花田委員 歯科医師会の花田でございます。

今、6割から8割くらいの点数というのは、日本全国でいうと平均点というわけではないのですか。同じ評価の方法をして、この点数を見て、足立区は25か所、全部すごくいいではないかというふうに思ったのですが、これは例えば、隣の区だとか、葛飾区とか荒川区とか、ほかの区も同じような評価の点数の付け方をして、点数がもっと低いとかもっと高いとかという。ほかと比較して、特別この点数は高いのか低いのかがよく分からないのですが、どうなのですか。

○柳瀬課長 これはあくまでも自治体ごとに、どういうものを評価していくかというのは決めているところでございますので、単純にほかの自治体のハウカツとの比較を目的としたものではないです。

○大口部会長 あと1点。私も国の動きに関わっているので現状についてご説明します。国全体として、いわゆる標準的な評価指標みたいなことは整えてはいるのですが、今回、足立区さんのほうが優れているなというふうに感じるのは、国のほうでつくられている指標自体が数年前の指標なのですよね。

ですから、今の新しい動きとかの項目とかが入っていなかったりというのがあったりして、多分、次年度、次々年度、国のほうはつくり変えていくという話もあると思うのですが、今みたいな、全国的にどうなのかなという話は確かに出てはいます。でも、そのことも加味しながらこの業務評価を足立区さんは組まれているので、これはすごく個人的な主観になってしまうのですが、足立区さんの位置というのは全国の中で、全国のハウカツを見ている立場からすると、いわゆる標準の水準レベルではなくて、高水準の

中で、さらによくしていくのにはどうしていくのがいいのを考える必要があるのではないかなと思います。そのような感じのことが特にこの評点とかで高得点を取っている方々に見られているので、足立区全体の業務の標準化という意図がうまく示せればいいのですけれども。

○花田委員 ありがとうございます。

○大口部会長 ほかに、何かお気づきの点がございましたらお願いします。

○鶴沢委員 今のお話、全国的に見ても進んだ取組や、客観的に質が高い仕事をしているということがもし示せるのだったら、全国平均より高い賃金が払われているのかなと。

先ほど課長のお話で、ハウカツを増やす方式ではなくて手厚くするというところで、人材確保の点が今後かなりの課題だろうなと。これは在宅の現場でも全くそのとおりで、欲しいと思ってもなかなか集まらない現状は多分一緒だろうと。余計厳しいかもしれないなと思うと、そういった視点も同時に、今日の議題ではないですが、継続的な課題なのだろうなと思いました。

○大口部会長 ありがとうございます。

今、業務委託評価に行ってみてと分かるのですが、各ハウカツさんがかなり苦勞をして職員さんを確保されているという部分もあると思うので、この辺はうまく区とか周りの皆様とも協力しながら、できることなら、辞めていく方ももちろんいらっしゃるんですけど、いい人材が足立区内ですっと働けるような形でうまく循環すればいいな、成長していければいいなと思うところですね。

ありがとうございます。

○茂出木委員 感想なのですが、本当に

私から見ると、ハウカツの方はすごく一生懸命やってくださっている。本当は、点数ではなくて感謝の気持ちを伝えたいなというも思っていたのです。だから、何かそういうのが点数だけで評価されてしまうと、ばらつきが出てしまっていますが、気持ちとしては、本当に一生懸命やってくださってありがとうございますというような気持ちをどこかに入れさせてもらいたいなと思うくらいなのです。

○大口部会長 ありがとうございます。とても大事なところで、私たちのこの運営協議会というのは、いろいろな関係者で構成されていて、ハウカツを応援する会だということからすると、今みたいな話というのも忘れてはならないところではないかなと思うのです。

○大口部会長 さて、協議という形ではありましたが、そういった意味でいえば、業務委託評価については今後また続けていく部分は出てくるので、今出てきた意見などを踏まえながら、また公表に向けて、また次年度に向けて、うまく準備できていければなというふうに思いますので、引き続きよろしく願います。

ちなみになのですが、ここら辺の評価の話というのは、親部会になる地域包括ケアシステム推進会議のほうにも出されるご予定だと思います。そこの部分でも、議論をしていければなというふうに思います。

では、ほかに報告事項とか、もうかなり議論はされていましたが、そのほかでお気づきの点やこの場で発言のある方がいらっしやれば。

ある程度、議論はできたところでしょうかね。

では、またお気づきの点とか、あとウェブ上で少しご発言難しかったということなどがございましたら、また事務局のほうに、この部分はこうだったのだけれどもという形で、また別途、電話やメールなどで後でお伝えいただければというふうに思います。

では、4つのことについて、協議と報告事項について、皆様からの議論は以上になるかなとは思いますが、全体を通して、2回の協議会でしたけれども、何か皆様からご質問とかがあれば。

○和田忍委員 これは質問ではなく、大口部会長がすごく詳しいところもあるので。少し先々の話になりますが、今、国政の動きでハウカツ全体がかなり厳しい状況に置かれているということで、いろいろな審議がされていて、その中で、例えば総合相談の部分などについて居宅介護支援事業所さんに一部お願いするとか、または小規模多機能とかにお願いするというような案だとか、介護予防プランについては、そのまま居宅介護支援事業者さんをお願いできるようにしたらどうかとか、いろいろな案の検討が進んでいると思うのです。

こういったものがまたあった場合には、恐らくこちらでやっていることも影響をまた受けてくると思うのですけれども、その辺というのは、やはりこちらの運営協議部会の中では所管して話し合ったりする事項に関わってくるのですかね。人員とか体制のことはたしか所管事項ではなかったですか。

○大口部会長 そうですね。所掌業務、役割の中には、ハウカツの運営体制が触れてあって、あと、予防プランの委託に関わるような話も確かにこちらの運営協

議会の中の話ですよ。

○和田忍委員 その辺のところは何か情報がございませうか。

○大口部会長 今、和田忍委員よりお話があったことは、まさに今国のほうで、介護保険制度の改正という形で議論されていることで、ただ、東京都の方針とかそういうところもなかなか出てこない。これからまださらに国のほうでも審議されて、具体的なところが出てくるのかと思います。ホウカツに関わるところについては、大きく、総合相談の在り方をどういうふうにしていくのかというところで、ホウカツさんの中には土日とか、夜間帯もさまざまな方法で受け付けている方々もいらっしゃると思うのですが、いわゆる御本人だけではなく家族からの相談とか、そういったことももっと受け付けるということも含めて、ホウカツだけではなくて、地域の居宅介護支援事業所だとか、または地域密着型サービス、グループホームとか小規模多機能とか、そういうところでも相談を受け付けられるようにみたい。ランチとかサブセンターという言い方を東京都内だとホウカツ以外にしているところもあるのですけれども、ある意味そういったところの地域の事業所の方と一緒にやっていくみたいな話も確かに出てきているのは事実です。

これがどうなっていくかというのがありますし、予防プランというところについても、ホウカツがというだけでなく、居宅介護支援事業所の方々がという形で予防プランがつかれる、つまり、受けるということ、再委託という形ではなくてということも議論されたりすると思うのです。こちら辺の議論というのは、体制

的なところとか、そこで生じた課題というのは、かなりここの運営推進会議、運営協議会でも拾っていただけると思うのですが、在り方等を検討していくとなると、地域包括ケアシステム推進になると介護保険関係の話になるとか、私たちの立ち位置も含めて、どうですかね。

○センター担当 通知が正式に出ていないので、はっきりとは申し上げられませんが、ホウカツに関しては地域包括ケア推進課だと思います。あとは介護保険課ももしかしたら一緒に検討するかもしれません。

○大口部会長 また国からの方向性が決まり、東京都からの何らかの説明とか、そういうこともあり、ホウカツや関係機関の方や介護保険課とかいろいろなところと相談しつつ、案を練って、こんな感じでやっという方針が出てくるのですかね。

それに伴って、確かに業務委託評価の在り方だとか、実態把握とか、システムのことも大きく変わってくる部分もあるかもしれないので、そこも加味して、方向性が出たところの部分で、うまく業務委託評価の中にも、事業ごとに適時見直しを行うというふうになってくると思うので、ある意味、それぞれの年に出てきた課題としてちゃんと拾い上げていく必要があると思います。

○和田忍委員 ありがとうございます。

○大口部会長 ただ、確かに今、お話があったように、来年とか再来年もホウカツのほうは大きな動きがあることが想定されるので、足立区の区民の皆様がそこに影響を極力受けない形でうまく進めていければなというふうに思うところですかね。

そのほか、皆様のほうから何かございますか。

ありがとうございます。では、協議の案件は以上という形にして、事務局のほうに、今後の進行をお願いしたいと思います。

○センター担当 ありがとうございます。大口部会長を初め、各委員から活発なご意見とご質問を頂戴しました。ありがとうございます。

それでは、令和4年度第2回足立区地域包括支援センター運営協議部会を終了いたします。本日はありがとうございます。